

1971年8月7日第3種郵便物認可（毎月6回）1の日・6の日
2014年8月1日発行SSKA通巻第8338号

SSKA

全国パーキンソン病友の会会報
茨城県支部だより

2014年8月1日発行[第95号]



霞ヶ浦総合公園のオランダ型風車（土浦市）

全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 茨城県龍ヶ崎市貝原塚町 3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

郵便振替口座 00300-4-38042

Eメール yasuhisa.u@hb.tpl.jp

目 次

◎	目次	2
◎	巻頭言	3
◎	特定疾患医療受給者証をお持ちの方へ	3
◎	第 29 回定期支部総会の報告	4
◎	第 29 回定期支部総会議案書	4
◎	<第 1 議案>	4
◎	<第 8 議案>	6
◎	<第 2 議案>	7
◎	<第 3 議案>	7
◎	<第 4 議案>	8
◎	<第 5 議案>	8
◎	<第 6 議案>	9
◎	<第 7 議案>	9
◎	第 29 回定期支部総会を終えて	10
◎	第 29 回定期支部総会に出席して①	11
◎	第 29 回定期支部総会に出席して②	12
◎	第 5 回誌上作品展の作品募集	12
◎	第 29 回定期支部総会に出席して③	13
◎	平成 26 年度国会請願に参加して	14
◎	平成 23 年度県央・県北地区交流会を開催して	15
◎	平成 23 年度県央・県北地区交流会に参加して	15
◎	百人一首	17
◎	百人一首	18
◎	起き上がり介助の基本	19
◎	事務局からのお知らせ	23
◎	編集後記	24

<巻頭言>

全国総会・大会を当地茨城県支部で開催するに当って

支部長 植本泰久

来年度の第6回定期社員総会・第39回全国大会を茨城県支部で開催することになりました。当支部は1986年3月に支部を結成し、1995年に第9回全国総会・大会を大洗海岸の近くで行いました。

今回は、水戸市で行います。全国の会員数は大幅に増えておりますので、前回とは違って大勢の参加に

なります。大変な努力が必要になるでしょう。しかしながら裏を返して見れば、支部の実力を付けるまたとないチャンスと言えます。“やればできる何事も”の精神でがんばり、成功を目指しましょう。

会員皆様のご協力をお願いします。また実行委員としてご協力を頂ける方はお申し出ください。



水戸市マスコットキャラクター
みとちゃん

茨城県健康福祉予防課特定疾患担当から

特定疾患医療受給者証をお持ちの方へ

これは今年の4月に受給者証をお持ちの方へと云う書類が皆様のところへ届いたと思いますが大切なことなので事務局からもお知らせします。

特定疾患受給者証の更新について毎年6月から9月の間に行っています。今年は特定疾患の有効期限が12月31日までになりましたのでそのまま使用できます。27年度以降の受給者証の申請については、26年9月頃より申請の受付が始まる予定です。更新手続きとして「臨床調査個人表（更新）」が必要となりますので9月頃までにご用意されることをお勧めします。

第 29 回定期支部総会の報告

日 程

日時：26 年 4 月 20 日（日）10：00～15：00

場所：茨城県総合福祉会館 4 階 大研修室

内容：10：30～12：00 総会

12：00～13：00 昼食

13：00～15：00 高橋淳先生による講演会

上記日程にて、無事総会の議事が承認されました。『iPS 細胞を用いたパーキンソン病治療』と云う演題で過去にない会員・家族の出席でした。

また、第 29 回定期支部総会の議案書は第 1 号議案、(活動報告)、第 2 号議案 (一般会計決算報告)、第 3 号議案 (特別会計決算報告)、第 4 号議案 (会計監査報告)、第 5 号議案 (26 年度活動方針)、第 6 号議案 (26 年度一般会計予算) 第 7 号議案 (26 年度特別会計予算)、第 8 号議案 (支部役員選出名簿) を議案書通り多少縮小して掲載致します。どうか会の動きを確認して下さいますようお願いいたします。

第 29 回定期支部総会議案書

< 第 1 号議案 >

平成 25 年度活動報告

平成 25 年度の全国パーキンソン病友の会茨城県支部の活動は友の会の方針に従って、交流会、一泊旅行、製薬会社の主催による市民講座などを行って会員皆様に寄り添う事を目標にして進めてきました。

一方、国では難病の法制化が行われる為に、厚労省の職員が茨城県まで出向いて、私たちの意見を聞いてくれました。ところが難病の予算には限りがあり取り扱い疾患が 56 から 300 に広げるので今後の動きを見守っていかねばなりません。

また、iPS 細胞を使ってパーキンソン病の治療を行うのも、2016 年になると新聞報道で伝えられています。

最近の高齢化社会ではパーキンソン病患者は確実に増えてきています。この病気は顔が違いうように一人一人の処方が違ってきます。

友の会はそんな患者様の悩みや、疑問をなくするために活動をしています。自分一人ではなく友人がいることが解ると頑張る力も出てきます。一人で悩まないで、会員の皆様と分かち合いましょう。

1、25.4.4～25.4.5

4.11 「世界パーキンソンデー」に国会請願を行い、厚生労働省と交渉をした。翌日は本部の勉強会に、支部長他3名参加した。

2、25.4.21

茨城県支部の第25回定期支部総会を行い、自治医科大学、内科学教授、神経内科部門、准教授の藤本健一先生による講演会を開催し、120名参加を得た。

3、25.6.20～25.6.21

第35回全国パーキンソン病友の会総会・大会が静岡県にて開催され支部長他5名参加した。

4、25.6.30

平成25年度第1回の県央・県北地区患者・家族の交流会を日立市福祉プラザで開催し、27名参加した。

5、25.7.21

平成25年度第1回県南地区の患者家族の交流会を常総市石下の福祉センターで開催し44名参加した。

6、25.9.29～25.9.30

恒例の患者・家族の一泊交流会を大子温泉『やみぞ』で開催し、支部長他34名参加した。

7、25.11.14

平成25年度第2回県央・県北地区の交流会が鉾田保健センターで開催され、30名参加した。

8、25.11.14

日立保健所で患者家族の交流会が開催され支部長他1名参加した。

9、25.12.7

パーキンソン病の日立市民講座が日立地区産業支援センターで行われ役員や会員家族が参加した。

10、26.3.9

平成25年度第2回県南地区の患者・家族の交流会を龍ヶ崎市の 駒柴コミュニティセンターで開催し65名参加した。

11、茨城県難病団体連絡協議会の活動

(1) 25. 5. 19

第 31 回総会が茨城県総合福祉会館で行われ、支部長他 8 名参加した。

(2) 25. 9. 18

厚生労働省から難病の調査に来られ話し合った。

(3) 25. 11. 9

難病フェスタが県総合福祉会館で開催され、支部長他 11 名参加した。

(4) 25. 11. 27

茨城県との懇談会が開催され、県に要望をした。(支部長他 3 名参加)

12、その他の活動

支部役員会開催		支部だより発行		全国会報発行
4. 1	11. 18	92 号	8. 1	132 号 4 月
5. 20	1. 15	93 号	11. 25	133 号 8 月
7. 8		94 号	3. 22	134 号 11 月
9. 9				135 号 1 月

< 第 8 号議案 >

平成 26 年度支部役員選出名簿 (案)

役 職		氏 名	住 所	担当地区
支部長				
副支部長				
事務局長・会計				
事務局員				
監 査				
監 査				

<第4号議案>

平成25年度会計監査報告

平成25年度の一般会計及び特別会計の決算を監査した結果、現金、現金出納帳、預金通帳、振替口座、領収書等すべての会計処理は、いずれも公正妥当であることを認めます。

全国パーキンソン病友の会 茨城県支部監事

平成26年4月7日
宮部知克 印
竹内泰生 印

<第5号議案>

平成26年度活動方針

- 1、保健所、病院、マスコミ等を通じて未加入潜在患者の発掘に努めると共に、一般社会にパーキンソン病についての啓蒙活動を行います。
- 2、人と人との絆を大切にし、友愛活動を活発化させ遠隔地の方々にも参加を呼びかけます。
- 3、県央・県北・県南の地区活動の推進を計ります。
- 4、全国パーキンソン病友の会、茨城県難病団体連絡協議会との連携を深めます。
- 5、支部会報の充実を図ります。
- 6、会員の親睦を図り情報の交換を行うため、一泊旅行を行います。
- 7、病気を理解し、学ぶ姿勢を持ち、自分らしい生活を送り、人生を明るく楽しく有意義にするよう会の運営を行います。

第 29 回定期支部総会・講演会を終えて

事務局長 植本純代

全国パーキンソン病友の会茨城県支部では、4月20日に第29回定期支部総会を行い、午後の講演会は『iPS細胞を用いたパーキンソン病治療』の演題で京都大学iPS研究所の高橋淳教授にお願いしました。

総会は宮部監事の司会から始まり、寺門役員に議長をお願いして、25年度の活動報告、決算報告、会計監査、26年度の活動方針、予算、役員選出等、議案内容は順調に進んで終わりました。

昼食後は『iPS細胞』の講演会です。2月末日に読売新聞やNHKでiPS細胞の最近の状況が掲載されたり、テレビ報道があつて、この講演会がグッドタイミングであることから各報道関係各社に報道を依頼しました。

会場はMAX入場者が150名の茨城県総合福祉会館の大研修室です。会員が100名、一般参加者が50名にして募集しましたが、一般参加者が50名以上の申し込みがありましたがお断りせざるをえませんでした。結果的には会員が90名、一般参加者が60名になりました。一番遠くからは新潟県から2名来られました。

1:00から3:00まで10分の休

憩を挟んだ講演で、高橋先生に会員から頂いた質問をお出ししましたところ、皆様の興味のあるところから話しましょうと、質問から話してくれました。2時間の間、皆様熱心に聞かれて、3時過ぎに終わりました。

大成功、大成功と思いながら、iPS細胞移植がパーキンソン病の治療に皆様がいかに期待をしているのかと云うことがよく伝わりました。

『iPS細胞を用いたパーキンソン病治療』は茨城県支部で講演録を出すように役員で纏めています。

期待されて待っているiPS細胞移植手術ですが、もう少し時間がかかります。諦めずに期待を以って生活しましょう。



講演会の様子

第 29 回定期支部総会に出席して①

神栖市 秋山真理子

第 29 回定期支部総会が去る 4 月 20 日(日)に水戸の総合福祉会館で行われました

午後からは京都大学山中伸弥教授と共に iPS 細胞の臨床研究をされている高橋淳教授の講演会でした。

『iPS 細胞でパーキンソン病治療の臨床手続きへ』という新聞記事を読んで以来情報を拾い集めていましたが、直接携わっていらっしゃる先生をまじかに拝聴出来て幸運でした。

病気を抱えている人は沢山います。病人が 10 年待つことは、はかり知れない思いです。・・・

気持ちが逸る中、期待ばかりが膨らんでしまいがちですが、安全確保のためには多くの手順を踏まなくてはいけないようです

平成 37 年度に向けての一般的な保険治療の目標が、良い方に予想が外れ難病で苦しむ人達の少しでも早い救いとなることを願っています

す。

皆それぞれ違う環境で病気と闘っています。処方される薬も量もそれぞれ違う。思いつめると心の病気になることもある。

徐々に病気の進行を感じる中で、気持ちを立て直す気力を持ち続ける為にも時々同じ病を抱えている仲間と会い、気持ちを共有することでリセット出来る気がします。

家族も闘っている。友達も見守ってくれている。

私が今自分に課していることは、前向きに明るく楽しく生きること。

花咲く季節となりました。外に出かけてみませんか。物の見方が変わるかもしれません。

役員の皆様にはいつもお世話になり、有難うございます。お陰様で知り合いも増えました。皆様にお会いできる日を楽しみにしています。今後とも宜しくお願い致します。



第 29 回定期支部総会に出席して②

筑西市 大畑恒雄

この度、あらたに事務局の役員になりました大畑です。よろしくお願ひ致します。

先日行われた総会と講会の感想を申し上げます。

先ず、総会ですが、既役員の皆様には、何かと多忙で体調不良にもかかわらず、各人がそれぞれ真剣で積極的な準備計画の基、混乱もなく閉会を迎えられお疲れ様でした。

京都大学高橋淳教授による iPS 細胞の講演ですが、最初、身近な質問の回答があり大変参考になりました。

講演では、これまで動物実験を繰り返してきた成果を基に、今年度中に人への臨床治療の申請を京都大学へ、ま

た、来年度は国の審査委員会に申請し、認可されればその結果を受けて京都大学が患者を募り、治療を開始すること、それが順調にあって、その後、国内での一般治療となること、併せて、なぜドパミン神経が死滅していくかを研究して行く過程で新たな治療薬の開発も期待されていること、前途は明るいと思われれます。

最後に高橋教授から映画『レナードの朝』の観賞の推薦がありました。この映画はパーキンソン病患者のレナードのお話だそうです。是非観賞したいと思っています。

第 5 回誌上作品展の作品募集

第 5 回作品展を下記の通り行いますので、皆様の作品の出品をお願いします。

掲載会報：支部だより(96号)

募集作品：文芸作品（俳句、川柳、短歌、詩等）

美術作品（書道、油絵、水彩画、版画、切り絵、ぬり絵等）

手芸、工芸その他の作品、

A4 サイズ以下の写真でお送り下さい。

締め切り：平成 26 年 10 月 31 日

送り先：〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町 3552-6

植本泰久宛

第 29 回定期支部総会に出席して③

日立市 鈴木弘子

去る 4 月 20 日、定期支部総会並びに『iPS 細胞を用いたパーキンソン病治療』を京都大学 iPS 細胞研究所の医学博士の高橋淳教授の講演会が開催されました。

総会はベテラン役員の方々のお陰で、異議なくスムーズに承認され終了しました。

午後から上記の iPS 細胞治療についてお話し下さいました。非常に関心がありましたので、前の席で拝聴しまして、その一部ですが、平成 27 年度に国の審査委員会で OK が出れば、臨床研究に入ること。それは患者の血液から iPS 細胞を作製し、更に大量の細胞に成長させて、患者の脳に移植す

る。患者の脳内で減っている神経伝達物質のドパミンを増やすとのことでした。

治療対象者は、重症者は対象にならない。ドパミンを補うので、他の病気は対象外である。

手術は大げさではなく、1～2週間ほどで退院できる。

自家移植のやり方(自分の細胞を自分に移植する)と他家移植のやり方(他人の細胞を移植する)の方法がある。移植に関していろいろと条件があるようです。

日進月歩の変化がある昨今、一日も早い iPS 細胞移植の実用化を期待しています。

<私の病歴>

発症して6年になります。薬の効き目が短くなってきました。歩行障害、動作の緩慢、足のこわばり等の症状があります。調子のよい時には3～4kmの距離を歩いたり、部屋の周りを30周歩いています。また、マッサージに週2回通っています。身の回り、買い物(近くのスーパー)、病院はバスで行き、出来る範囲でやっています。そのうち子供に頼む時が来ると思いますので迷惑をかけないように生活しています。

2年前になりますが、茨城県立医療大学付属病院に1ヶ月間入院しまして、お薬とリハビリと、歩くことが大切であると思いました。体を動かすことによって、脳の活性化を図ることでした。少しでも進行が阻止出来たらと願っております。

会員が一堂に会して、いろいろな行事に参加出来ますことは役員皆様のお骨折りと深く感謝いたしております。



平成 26 年度国会請願に参加して

事務局長 植本純代

今年も国会請願は世界パーキンソンデー、当日の 4 月 11 日に開催されました。参議院会館の講堂に集まり、12 時 30 分から集会が行われ、全国各支部からの参加は 140 名を超えました。(本部確認)

中村博全国パーキンソン病友の会代表理事から挨拶があり、続いて 7 名の国会議員の方々から友の会を応援する力強いご挨拶を頂きました。

続いて、患者の訴えを大阪府支部の前原隆司さん、千葉県支部の近藤啓一さん、福島県支部の高橋実さんが行い、その後、共産党の田村智子議員が総括し、集会が午後 2 時ごろに終わりました。

それからは集めた署名簿を持って衆・参両院の紹介議員にお願いに上がるのですが、茨城県では、毎年お願いしている岡田・葉梨議員が内閣に入閣したので、その他の議員様にお願いしましたが、どの議員も取り扱ってくれなかったので本部にお頼みしました。

そして、岡田・上月参議院議員、葉梨・丹羽衆議院議員様たちに全国会報と支部だよりをお届けしながらお伺いしました。

それらが終わって南青山会館に

集まって、18:30~20:30 まで交流会を行い、他支部の方々と歓談をしたり、広島県支部の支部長夫妻の“元気な子”ライブがありました。

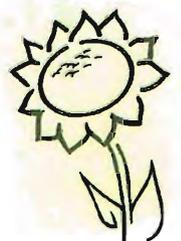
翌日は 9 時から勉強会がありました。厚労省の田原疾病対策課長から国会審議に入った難病新法の法案の説明など 1 時間ぐらいありました。

その後、中村代表からお礼の言葉があり、米谷常務理事から閉会の挨拶があり終了となりました。

今年は集会時間が短くなって、早く終わりました。出席者は支部長と、私、松田さつきさんの 3 名でした。(松田さんは用事があり請願のみ行い、帰られました。)

この行事は全国パーキンソン病友の会の大きな行事です。また皆様から集めた募金で参加費を出させて頂いておりますので、報告させていただきます。

(注) パーキンソンデーとはパーキンソン病を見つけたジェームスパーキンソン氏の誕生日です。今年はその 4 月 11 日に友の会は活動を行いました。



県北・県央地区合同交流会を開催して

水戸市 宮部知克

県北・県央地区合同交流会も回を重ね、昨年六月には日立市で、十一月には鉾田市でそれぞれ開催する事ができました。皆様のご協力に感謝致します。さて、平成二十六年度第一回の交流会は、『歌おうみんなで元気よく』をテーマに、水戸市での開催を企画させて頂きました。会場としては、アクセスをはじめ、身体の不自由な方やお年寄りが安心して利用できるという事で、水戸市福祉ボランティア会館（ミオス二階）に決定しました。また付き添いを必要とされる方々のご家族の事も考慮し、開催日を六月二十二日の日曜日、十時からの開催と致しました。しかし、天気だけは思い通りに行かないもので、交流会の当日はあいにくの雨でした。そんな悪天候にも拘わらず約三十名が参加され、午前中は、病状や病気からくる悩みなどを含めた自己紹介で終わりました。

正午を少し回る頃、雑談をしな

がらの楽しい昼食です。やがて食事の時間も過ぎ、いよいよ今日最大のイベント『歌おうみんなで元気よく』の始まりです。

今回はミュージック・ケアさんにご協力を頂き、今までに無い演出の中で思う存分楽しみました。次から次へとキーボードで演奏される思い出の歌や懐かしい歌、寺門役員に用意して頂いた大きな歌詞カードを見ながらの大合唱は、大変な盛り上がりでした。また、川又先生指導の下、リズムカルな音楽を聞きながらの全員参加による演奏は、実に見事でありました。カスタネットあり、タンバリンあり、鳴子を一生懸命に鳴らす患者さん、赤や青・ピンクや黄色のスカーフを頭上高くかざし、そのスカーフを音楽に合わせながら左右に振る患者さん、沖縄太鼓のパーランクーまで勢揃いした今回の交流会は、病気の事を忘れた仲間同士の笑顔笑顔で終わりました。



交流会風景

平成 26 年度県央・県北地区合同交流会に出席して

小美玉市 橋本昌久

今年も楽しみにしていた交流会が水戸市赤塚のミオス 2 階で開催されました。いつも介添人として出席し、開催されます各役員とボランティアの方々のご苦勞に感謝しております。

入会以来、最初は病歴も短く出席する皆様の、この病気に対する処し方や人生観を拝聴させて頂きまして、妻と共に話し合いを持ち将来における自分の姿、あるいは、生活状況等を推察させて頂いてまいりました。それはそれで私たち夫婦にとりまして役に立つ交流会でした。

その間、隠れパーキンソン病患者がこのような会合に来られれば良いのにと感じてまいりました。

病歴を重ねた昨今、今まで意識していなかった妻は、自分の病の状況をより客観的にみるようになり、こ

の病の一律性ではない、個人差の激しい症状に自分の歩んできた実体験を皆様にお伝えすることが、この会を運営してこられた役員様と参加された皆様方にお役にたつのではないかと考えており、継続して出席させて頂きたいと思っております。多くの方々のお話を、この会を通してお聴きになり、ご自分の生活や治療に役立てていくことが出来ますならば、この会の存在理由も一段と増すものと確信しております。

毎回各役員様とボランティアの皆様に深く感謝いたしております。

今回の午後の催しは、実に楽しく過ごさせて頂きました。大感謝です。身体の各部所もほぐれ、笑いも頂き、歌を歌い気持も高揚出来ました。とても良い企画だったと思います。これも感謝です。



楽しい交流会

夏風下
 ありと
 おもひ
 可なり
 草花
 風花

倉百人一首



梅の花の心は白の影の如く思ふ如く
 今一度のあつらひとわがな

和泉式部

たんぽぽ書

春
 心
 風
 雲
 雨
 雪
 霜
 露
 日
 月

清原元輔

梨の香は秋の風
 松の影は月夜の
 浪の音は心は

たにほほ書

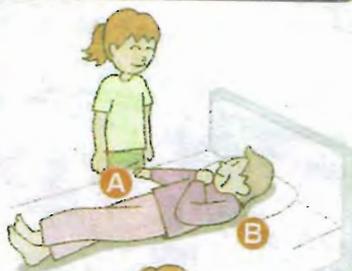
起き上がり介助の基本

(2014年5月23日付 読売新聞から)

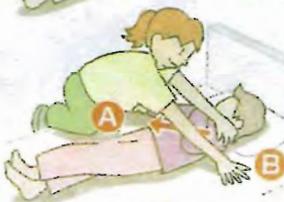
「人の体の自然な動き」を利用した、ベッド上での寝返り、起き上がり介助の基本を紹介する。“力に頼らず、自然な動きで”。これは介助される人のリハビリにもつながります。勿論介助する人は負担が少なくなります。

図Ⅰ 寝返りの介助

① お年寄りの顔を右に向け、左手を右肩におく。右腕は30度開く。左足は右足の上に重ねる



② 介助者はAに右ひざをのせ、右手のひらをBにつく。左手のひらをお年寄りの左肩に当て、矢印の方向に引く。上半身を寝返らせる



③ 骨盤を右手で引き、姿勢を整える



図Ⅱ ベッド上での起き上がり介助

① 寝返りの介助の後、両脚をベッドの端からおろす

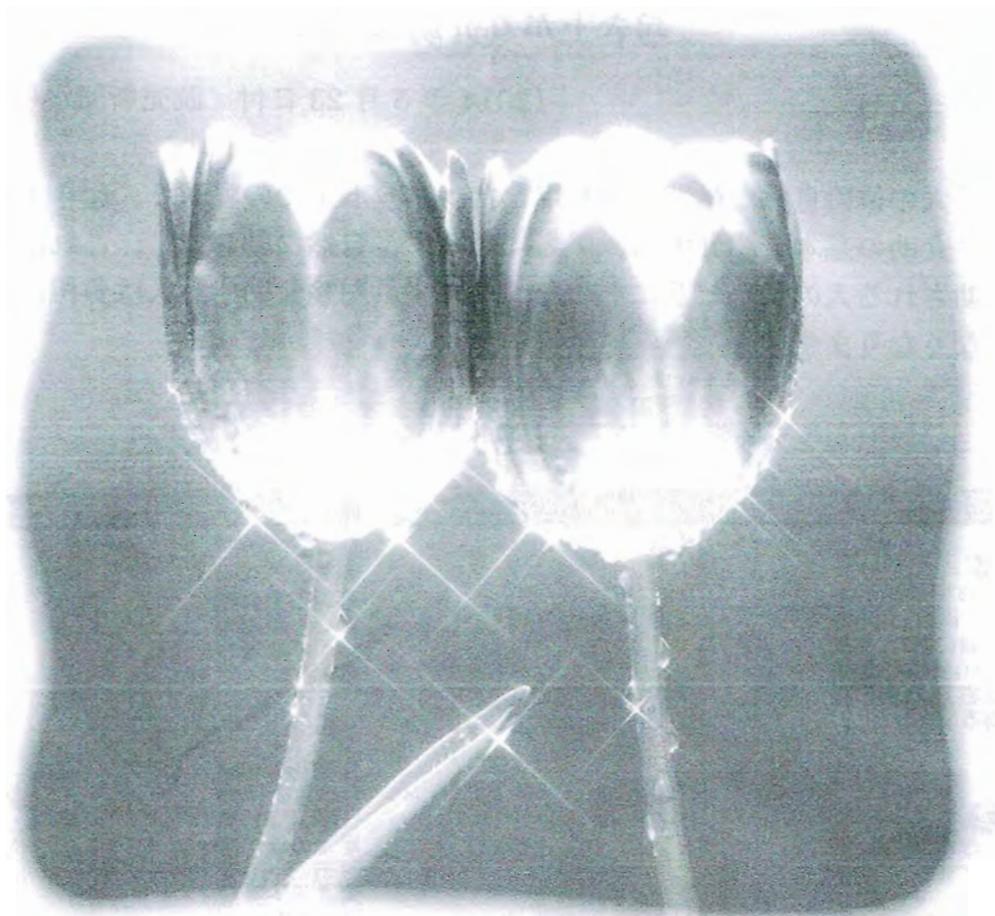


② 左腕をお年寄りの首の下から差し入れ、肩甲骨の間に手をおき、頭を支える。手前に引き寄せながら上半身を起こす



③ 右手で骨盤を押しさえて座らせる





患者さんのために
信頼と愛がいっぱいだった

藤本製薬グループ

エフピー

株式会社

〔お問い合わせ先〕

〒580-0011 大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

TEL:0120-545-427 FAX:0120-728-093

URL:<http://www.fp-pharm.co.jp/>

平成23年5月作成



家族の
気持ちに、
新しい薬で
こたえたい。

あなたのからだを、気遣う。

あなたのこれからを、気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer



グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置く世界をリードする医薬品およびヘルスケア企業です。中枢神経領域、呼吸器領域、ウイルス感染症、がん治療領域などの医療用医薬品やワクチン、「コンタック」「アクアフレッシュ」「ポリデント」「シュミテクト」などのコンシューマーヘルスケア製品を通じて、人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としています。

グラクソ・スミスクライン株式会社

本社 〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル

<http://glaxosmithkline.co.jp>

1971年8月7日第3種郵便物認可(毎月6回)1の日、6の日
2014年8月1日発行SSKA通巻8338号

編集後記

難病患者に対する医療等に関する法律(難病法)の成立が4月から5月にかけて衆・参両議院共、全会派一致で採択されました。疾患が56から300に拡大されます。パーキンソン病の自己負担はどうなるのか、見守りが大切です。今後、ニュース等に関心を持って、いきましょう。

会員の皆様の体験記、自分史、生活の工夫、苦言、要望などまた、詩、短歌、俳句、川柳、書道、切り絵、その他の作品、料理レシピなどを募集しています。

会報を発表の場としてご利用下さい。尚、メールを使用されている方はメールでお願いします。(アドレスは表紙にあります)

編集者 全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3552-6

TEL&FAX 0297-64-3546

発行者 特定非営利活動法人・障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26-21

TEL 03-3416-1698 FAX 03-3416-3129

頒 価 500円